

平成27年度  
横浜市立高等学校  
自己評価書

横浜市立みなと総合高等学校



7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		58	58	100.0 %
生徒	1年	238	206	86.5 %
	2年	237	215	90.7 %
	3年	236	193	81.7 %
	4年	0	0	0.0 %
	合計	711	672	94.5 %
保護者		711	384	54.0 %

8 自己評価実施日

教職員	平成27年12月8日～平成27年12月12日
生徒	平成27年11月13日
保護者	平成27年11月13日～平成27年11月20日

9 集計・分析期間

平成27年12月12日～平成28年3月23日
------------------------

10 自己評価書の公表方法・時期

平成28年5月中旬頃、学校WEBページにて公開予定

## <自己評価>

### 1 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

#### 「 魅力ある高校づくりのための使命 」

- キャリア教育実践校として社会における実践力を育てます
- 国際交流活動や語学力の習得を通して国際性を高めます
  - ・確かな学力の向上を図り、自主自立の精神を育て、学ぶ力を伸長する学校
  - ・総合学科の特徴を生かしたキャリア教育等の取り組みを実践し、キャリア形成を支援する学校
  - ・国際理解教育・異文化理解教育等の取り組みを実践し、コミュニケーション力を高める学校

#### □魅力ある学校づくりの推進状況

(関連アンケート番号：教職員1、生徒1、保護者1, 2)

取 組	<p>・本校の使命としては「キャリア教育」と「国際性を高める教育」の推進が掲げられているが、教職員間で個々の認識に差が見受けられる。総合学科推進部が中心となり、職員研修会や職員会議、学校説明会などを通じて「総合学科高校としてのみならず総合高校」の使命の共通理解と共有化をはかった。</p>
成 果	<p>・教職員の70%が「おおむね達成できている」と回答している。これは、生徒たちのキャリア研究に関するプレゼンテーションの質の高さや国際交流が活発に行われていることへの理解の表れである。また、キャリア教育と国際交流の意味や意義を理解する教職員が増えてきたことも大きな成果であると言える。</p>
課 題	<p>・15%の教職員が否定的な意見を持っている。これが「キャリア教育」と「国際性を高める教育」の質と量が足りないと考えられているのか、そもそもこの使命に対しての否定的意見なのかを分析する必要がある。前者の場合は、全校的に協力しながら高めていく必要がある。後者であれば、管理職や主幹教諭を中心に「本校の使命」についての説明が急務である。いずれにせよ、本校の進むべきベクトルを全教職員で共通理解し、進めていかねばならない。</p>
改善策	<p>・使命の遂行については、管理職と主幹教諭が全教職員を同じ方向へ進むためのリーダーシップを発揮する。その場として、総合学科推進部、課題検討委員会、「キャリア教育を考える会」などが随時、研修会や勉強会を開催する。教職員も受け身にならず、本校の「使命」を理解し、それぞれの問題意識を持って研修に励むようにする。</p>

## 教育活動の状況

### (1) 各教科等の状況

#### □教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 2 3、生徒 1、保護者 1 2)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の多様な進路や興味・関心に対応した選択科目を数多く設置している。少人数講座、習熟度別講座などにより生徒の学習活動を促進するとともに、主体的な科目選択（時間割作り）の実現に努めている。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の評価指標「教育課程の編成」の「学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている」は、「十分に実現できている」・「おおむね実現できている」の数値をあわせると 86.2%であり、「取組」の「学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる」も、「十分に実現できている」と「おおむね実現できている」で 84.1%である。</li> <li>・生徒による学校評価指標「教育活動等について」の「1 希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されていますか。」で「そう思う」と「ややそう思う」の数値をあわせると 92.5%であり、保護者による学校評価指標「2. 本校のカリキュラムはお子さんの進路実現に適していると思いますか。」でも 82.3%である。生徒・保護者・職員とも昨年の値とほぼ同等であり、本校の教育課程の取り組みに対して共通の理解が得られていると考えられる。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者による学校評価指標「2. 本校のカリキュラムはお子さんの進路実現に適していると思いますか。」に対して昨年度より減少してはいるものの 7,8%の保護者が「そう思わない」等の結果が見られた。より一層、保護者に理解される対策が必要である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不成立の科目少なくするための科目の検討及び、科目の精選を行い、選択できない生徒の人数がより少なくなるように努力していく。</li> <li>・総合学科高校として、生徒の多様な進路に対応できる選択形式を維持発展させていく。</li> <li>・本校の科目選択システムを保護者の方に理解しやすいシステムの検討を行う。</li> </ul>

□教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 4 5 6、生徒 1、保護者 2)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領および横浜市立高校版学習指導要領に則り、年間授業計画および評価規準を定めて授業を実施し、生徒の満足度の高い授業を行えるように努めている。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導の指導計画・取り組み・指導評価の3項目とも8割～9割程度「実現している」等の高い取り組みがみられた。生徒・保護者共、学校評価アンケートで、本校の教育課程に対して「そう思う」・「ややそう思う」が9割程度あり評価を得ている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい授業を行う上で、講義形式から対話やグループ活動、発表を組み合わせた授業の検討を行い、より一層の授業改善の取り組みに努力する必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の改善を目指し、各教員が生徒の満足度の高い授業を実践する。</li> <li>・生徒・保護者に「履修・選択の手引き」の内容を把握してもらい、生徒と保護者と教員の連携を図り、互いが納得できる進路希望や興味関心に適した科目が選択できるようにする。本年度はその目的のためにいくつかの科目名の変更等を行った。</li> </ul>

□特別活動・部活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 7、生徒 3、保護者 3 4)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の生徒の自覚を促すためクラスでの報告時間を確保するよう試みた。それに伴い、一般生徒もそれぞれの委員会の活動について参加意識を高められるようにした。</li> <li>・部活動では、より支援をしていくためにはどのような点を改善していけばよいのか検討し、顧問会の理解と協力を得て実行した。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の出欠を担当に知らせることで、全体としては生徒の参加意識は高まった。また、担任においては生徒会の活動状況の把握にも役立てられたと思う。</li> <li>・部活動では、生徒会費の使途の範囲を広げさせてもらい、より有効な予算だてができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員「7. 生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している」という項目では、「おおむね実現できている」以上が約 70%と、指導に関しては認められているものの、生徒にとっては「3. あなたは生徒会活動や委員会活動を主体的に活動していますか」の項目で「ややそう思う」以上が教職員ほどではない。</li> </ul> <p>これは、生徒の中には1年間、委員会に属さない生徒もおり、その点でマイナスの回答をした生徒がいるとは思いますが、しかし、生徒会員としては各種の行事や活動報告を聞くことも1つの主体的な活動であるため、その部分を理解させ、浸透させて意識を高めていくことが必要である。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会本部を中心に主体的に活動していけるよう全校に呼びかけていく。具体的には、LHR等を活用し様々な行事での決め事などを委員任せにしないよう取り組ませていく。</li> </ul>

(2) 生徒の状況

□生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 9、生徒 4 5 9、保護者 5)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活を 見つめる・見直す 週間」「校内巡回」企画・運営</li> <li>・下校指導 ・服装・身だしなみ指導を含む一般的生活指導</li> <li>・特別指導 ・情報交換会運営 ・いじめ防止対策委員会運営</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活を 見つめる・見直す 週間」「校内巡回」企画・運営については、適切に実施することができた。</li> <li>・下校指導については、年次と連携した通常の指導の他、放送部の協力による下校放送も日常的に受け入れられ、適切に実施された。</li> <li>・服装・身だしなみに関する規定改定に伴い、27年度は、特に服装指導に重点的に取り組んだ。生徒・職員の意識を喚起し、適切に実施された。</li> <li>・特別指導は、年次との連携を重視し、適切に実施された。</li> <li>・情報交換会は、適切に実施された。関連部署との情報共有のもと、生徒指導のサポートを適切に行うことができた。</li> <li>・いじめ防止基本方針に基づき、適切に実施された。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート 9 結果……31.7%の否定的意見への対応</li> <li>・生徒アンケート 4・5・9 結果……17.4～20.6%の否定的意見への対応</li> <li>・保護者アンケート 5 結果……31.8%の否定的意見への対応</li> <li>・服装・身だしなみを含む生活習慣の定着</li> <li>・いじめ防止対策委員会の適切な運営</li> </ul> <p>上記の点が課題である。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート 9 結果については、26年度との比較においては否定的意見が増えている状況に対応するためには、さまざまな機会における職員間の対話を通し、課題を明確に把握した上で適切に取り組む。</li> <li>・生徒アンケート 4・5・9 結果については、26年度との比較においては改善されたが、より高い満足感が得られるよう全体的に取り組みたい。特にいじめに対しては、いじめ防止対策委員会において、重点的に取り組む。</li> <li>・保護者アンケート 5 結果については、26年度との比較においては改善がみられていない。そのため引き続きさまざまな機会における保護者との対話を通し、課題を明確に把握した上で適切に取り組む。</li> </ul>



□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10、生徒 6、保護者 6)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路実現に向けての活動が量的に不十分と感じていたので、まず、学校内に情報を得る場所があり、そこを利用しやすくするための環境整備を行った。</li> <li>・環境整備を生徒（進路係）の手を借りながら行い、その際に、自分たちが整えたことにクラスで誇りをもって伝え、さらに全体での利用率を上げられるよう取り組んでもらうようにした。</li> <li>・3年次とは連絡を密に取りながら、書類作成や推薦関係の指導、就職試験の指導など丁寧に一方通行にならぬよう進めた。</li> <li>・医療系や公務員など、希望者は多くないが、適切な指導が必要なものに対しては個別にガイダンスを行った。</li> <li>・5月～6月にかけて保護者向けの進路に関する説明会を開き、生徒の希望する進路を実現するために、家庭としてできることなどを話し、学校と一体になって生徒を支えていくことに理解と協力を求めた。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路部の活動を全体に報告をすることで、教員用「10. 生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる」では、約73%が「概ね実現できている」以上であると感じている。</li> <li>・生徒「6. あなたは進路説明会等で進路に関する情報を十分に理解できましたか」では昨年よりも数値を上げ、「概ね実現できている」以上が79.2%である。大人が大人向けの説明ではなく、生徒目線で話をすることで少しは理解が深まったのではないかと考える。</li> <li>・保護者「6. 希望進路に応じた情報の提供があり、適切な指導が行われていると思いますか」では、「概ね実現できている」以上が76.3%である。家庭が学校にどこまでの指導を求めているかは不明であるが、学校としてできる限りのことは指導として行っている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として取り組む時期が遅い生徒たちに対し、如何に動機づけをして早めに取り組ませていくかということである。しかし、この間も基礎となる学力はしっかりと身に付けていくようしなければならない。</li> <li>・十分に理解をさせようと思うなら、やはり十分な時間が必要である。しかし、全体のスケジュールを考えると時間設定さえ難しい。よって、短時間で少しでも効果をあげられるようにする。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の進路実現の要素として学力は必要であり、身につけるための学習を習慣化できるよう、何度も話をしていくことも大切と考える。</li> <li>・進路部だけでなく、学習については、各教科で「スタディーサポート」の結果などを利用して弱点の克服など行ってもらえるようにする。</li> </ul>

□保健指導及び環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員 11 12、 生徒 7 8、 保護者 7 8)

取 組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身が自らの健康状態を把握し、健康の保持増進・改善に努めることができるよう、学校保健安全計画に基づき保健指導を実施した。具体的には保健調査票の記載内容と健康診断の結果、保健室来室状況や教職員の情報を総合的に判断し、全体指導として保健だよりの配布や保健関係資料の掲示などを行い、個人指導として通知や面談による保健指導を行った。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による学校評価「7 学校は生徒の健康管理について適切な指導をしていると思いますか。」では「そう思う」と「ややそう思う」が昨年度の 80.0%から今年度は 80.6%になっているが、保護者による同様の質問では昨年度の 67.0%から 64.1%になっている。これらのことから、生徒に対しては、学校保健への認識・理解が高まり、日常的な保健指導に対する一定の評価を得ているが、保護者の理解が得られるよう、引き続き取り組む必要があると思われる。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自らの健康課題に気付き、改善に向けて取り組むための情報を得られる工夫が必要と思われる。また、その時々生徒全体の状況、個人の状態に合わせた指導内容を計画し、柔軟に運用していくことが必要である。</li> <li>・このような取り組みを保護者にもご理解いただけるような取り組みが必要となる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健指導を進めていく中で、定期的に発行している保健だよりを活用し、配布日や内容の周知の仕方を工夫し、より生徒や家庭にとって分かりやすい形で保健情報の発信をしていく。</li> <li>・生徒トレーによる伝達の見直しをはかり、より迅速かつ正確な保健指導につながるよう努める。</li> <li>・保健関係資料の掲示場所を工夫し、タイムリーな情報提供ができるよう努める。</li> </ul>

### 3 学校経営の状況

#### (1) 学校の管理運営等の状況

##### □教育目標等の設定・実施状況

(関連アンケート番号：教職員 13、生徒 1、保護者 1 )

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生きていく力である人間力を高めるために、教職員は授業の充実をはじめ、学校生活の充実を図れるように日々研鑽に励んでいる。また、生徒や保護者にとって満足度の高い学校運営を目指して課題検討委員会、各教科、各年次、各分掌などで取り組んでいる。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による学校評価項目「13 学校教育目標の実現に向け、全職員が取り組んでいる」をみると本年度は「十分に実現できている」と「おおむね実現できている」を合わせて 73.3%であり、26 年度よりはやや増えている。</li> <li>生徒による学校評価項目「希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設定されていますか」をみると「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて 93.7%であり、ほとんどの生徒のニーズにこたえられていると考えられる。</li> <li>保護者による学校評価項目「1 本校の教育方針や学校目標を知っていますか」をみると「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて 87.6%と 26 年度に比べてやや高くなった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員による学校評価項目「13 学校教育目標の実現に向け、全職員が取り組んでいる」をみると「あまり実現できていない」と「全く実現できていない」が 23.3%であった。問題意識を有している全職員が事をやや減ったことを意味しており、学校教育目標の実現に向けた全職員の取り組みをしていくことが課題である。</li> <li>生徒や保護者の認知度はかなり高くなったが、今後も継続して周知していくことが課題である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員が学校目標および学校経営方針を十分に理解し、それらを意識しながら授業改善や学校運営改善に取り組む様々な活動を行う。また、理解するための研修会の実施も検討する。</li> <li>生徒に対しても本校の教育目標を意識させ、特色ある教育活動をおこなうことで、生徒・保護者とともに連携・協力体制をより強くして、より良い学校のあり方を作り上げていく。</li> </ul>

□組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 14 15 18、生徒、保護者)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題検討運営委員会を中心に、校内に存在する各種課題の解決への取り組み等をはじめ、より効率的で効果的な組織運営の実現のため、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の効率化をはじめ、節電対策、校内環境整備、各種学校行事の効果的な配置等々、改善に向け解決の成果を出しているところである。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未だに解決されていない課題が存在するのも事実である。28年度も優先順位の高いものから順次その解決に向け意欲的に取り組んでいく必要がある。特に一人ひとりの教職員が意欲を持って業務に取り組むためには組織の改編も必要になると思われる。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題検討運営委員会を中心に諸課題の原因を明確にすることにより、有効な解決策を見出していく。管理職の強いリーダーシップの発揮のもとに教職員が意欲を持って業務を遂行することのできる組織の適切な改編を目指す。</li> </ul>

□学校経理、施設・設備及び情報の管理状況

(関連アンケート番号：教職員 19 20 21 22、生徒 10 11、保護者 9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公正且つ公平で合理的な予算編成を実現するため、予算編成に関する方針を予算委員会において検討し、全職員の賛同を得る事により、共通の認識と理解に基づいた予算編成を実現している。</li> <li>・個人情報管理の徹底</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算編成及び会計報告について、実現できているという解答は90%を超え、上述の取り組みの成果と考えている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度ごとの予算編成については概ねうまく機能しているが、さらに中・長期的視点を取り入れることが必要である。</li> <li>・生徒の個人情報管理の面で不備があり、改善が急務である。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中・長期を展望した備品購入の計画をたてる。特に消耗の激しい備品については早急に取り組む。</li> <li>・公平かつ合理的な予算配分の実現に向け、継続的に取り組んでいく。</li> <li>・教務ロッカーのカギを強固な管理システムのもとに置く。</li> </ul>

(2) 保護者・地域等との連携協力の状況

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員 23 24、生徒 13、保護者 10)

取組	<ul style="list-style-type: none"><li>・主としてP T A活動を通じて、学校の教育内容等についての興味と関心を保護者に持ってもらえるように働きかけている。更に従来より、地域のイベントへの吹奏楽部の参加協力にも継続して取り組んでいる。27年度も26年度同様学校の教育施設や設備を活用したプラネタリウムの開催等、地域連携や学校開放の趣旨に沿った活動も実施した。また、災害復興支援の一環として青少年赤十字部員が中華街善隣門付近で募金活動を実施した。</li></ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校開放・地域連携に関しては、27年度も26年度並みの試みであったが、校外からの参加者も多く、本校への理解と協力に大きく貢献したと考えている。災害復興支援の一環として青少年赤十字部員の中華街善隣門近辺での募金活動では地域の人々だけでなく観光客の人々にも注目を浴びたくさんの募金を集めることができた。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・災害復興支援の一環として青少年赤十字部員が中華街善隣門近辺で募金活動を行なっているが、今後は更に対象地域を拡大し、より活発な活動を展開する必要がある。</li></ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域連携・学校開放の趣旨をより一層理解してもらおう努力を続け、人的及び予算の面の課題を解決し、教員・生徒の中にも「地域あつての学校」という意識を高めていく取り組みを目指す。</li></ul>

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 25 26、生徒 12、保護者)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と9月に避難訓練を実施し、火災時と震災時における避難経路の確認をおこなった。また、合わせて防災プログラムを実施し、集団下校時の班に分かれ、グループの担当教諭を把握した。また、災害時における搬送方法を学んだ。港中学校と横浜中華学院との三校合同避難訓練では、大津波時の避難場所を把握した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難経路に関しては、概ね把握できているものと思われるが、100%に近づける必要がある。また、集団下校時の班も把握できるようになってきている。三校合同避難訓練も混乱することなく計画通り実施できた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートにおいて、「避難経路を把握していない」生徒が「はっきりしない」も含め約37%もいたことは課題である。</li> <li>・教員のアンケートにおいて、「学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。」の質問に、全くできてないが0%、あまり実現できていないが5%であった。判断できないが1.7%程度あり昨年より減少しているものの課題と考えている。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難経路を把握できてない生徒に関しては、全体指導だけではなく、クラス単位でも丁寧にアナウンスしていく。</li> <li>・教員で周知徹底されていないと感じている場合は、生徒同様丁寧にアナウンスしていくことを目指す。</li> </ul>

□学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 27、生徒 13、保護者 10)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会と見学会(計7回実施)に、ほぼ25年度並みの参加者があった。中学校PTAの高校訪問や中学校へ出張しての説明会にも複数の職員で対応した。学校Webページの更新にもつとめた。緊急配信メールについては主要行事の告知をテスト配信という形で実施した。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの結果では職員の85%がおおむね実現できているとしているが、保護者の割合は68%となっている。26年度に比べ、その差は縮まっている。地球科学部の取り組みなどの影響ではないだろうか。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ保護者の約25%が十分でないという見方をされている現状は更なる改善を考えていく必要がある。文化祭以外のPTA関係の行事や授業公開への参加者があまり増えないこととあわせて考えていくことが課題と考える。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報の公開はなされていると考えるが、保護者や中学生などがどんな情報を求めているかを考える。プライバシーや肖像権の観点も重視しながら部活動や生徒会行事、国際理解教育関係などのWeb掲載を増やす。</li> </ul>